



みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第91号

発行日
令和5年3月1日

◇ 目 次 ◇

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| P-2: 救急救命講習会 | P-12: 自主観察会(7)野鳥観察 宮島 |
| P-2: 自主観察会(5)自然観察(室浜)下見 | P-14: 追加原稿の記載 |
| P-3: 公募観察会③自然観察(室浜) | ・2022.9.11(土)入浜池定点観察 |
| P-6: (午前)臨時総会・部会打ち合わせ | P-15 投稿: |
| (午後)会員研修会、懇親会 | ・宮島エコツーリズム協議会視察 |
| P-9: 自主観察会(6)新春弥山登山 | P-16: 編集後記 |

「 大改修の大鳥居と集合写真 」



大修理を終え色鮮やかになった大鳥居の前で、12月9日臨時総会時、集合写真を撮りました。昨年7月の研修の折、檜皮葺の大屋根のところまで上り じかに見学できた感動がよみがえります。今年2023年は 当会も24年目を迎えます。コロナ禍が収束しフルに活動ができる年になるよう願っています。

(2022年12月9日 撮影 河野 :文 岩崎)

救急救命講習会

日 時：11月5日（土）9：00～12:00

行事推進委員：松尾、森脇

出席者：猪谷 岩崎 恩田 河野 末原
兔谷 山本(昌) 以上7名

私たちボランティアは、その活動の大半が野外で、もし倒れたり怪我をしたらと思うことがあります。いざという時のために救命講習を受けなければと思いながら中々その機会がなく、コロナ禍のせいにして逃げていたように思えます。もう一度基本に立ち返り一つ一つ振り返る時間が必要なんだと改めて思いました。救急法とともに簡単な応急手当も学び、なるほどと思うことがたくさんありました。本当に受講してよかったです。



(文：恩田 、 写真：河野)

自主観察会(5) 自然観察(室浜)下見

日 時：11月19日（土）

場 所：大元公園～室浜、砲台跡

天 候：晴れ

行事推進委員：北野 小林(み) 佐渡 増田
山本(昌)

参加者：岩崎 小川 北野 河野 小林(勗)
末原 穂井田 増田 森 山本(昌)
横路 以上11名



トサムラサキ



集合写真
(写真：河野)

公募観察会③

自然観察(室浜)

日 時：11月26日(水) 9:00～14:50

場 所：大元公園～室浜、砲台跡

天 候：晴れ

行事推進委員：北野 小林(み) 佐渡 増田
山本(昌)

参加者：岩崎 小川 北野 河野 小林(勗)
佐渡 佐藤 末原 中道 穂井田 舩田
森 山本(昌) 横路 以上14名

環境省 永瀬自然保護官

公募参加者 14名

朝9時に大元公園無料休憩所に集合。
数日前に雨が降った為か、紅葉が一段と鮮やかな中での公募観察会となった。



環境省の永瀬保護官、宮島パークボランティア末原会長の挨拶の後、北野会員によるストレッチ運動で身体をほぐした。

参加者の中には、毎日ウォーキングで体調を整えている人も居る様だ。

9時15分、北野会員、山本(昌)会員リーダーの2班に分かれて大元公園を出発した。

大元トンネルの入り口の石垣にミヤジマシモツケ、出口付近の道端の崖にヒメイタビ・ミツデウラボシなど鹿の食害や乾燥などの厳しい環境の中で育つ植物が見られる。網の浦トンネルの入口近くに有ったヤマモガシの大樹が大きな切り株となっている。枯木となり危険となった為らしい。近くの若木の生長が期待される。江之浦の早咲きのヤマザクラは今年も大きく枝を広げて宮島の春を告げたと

言う。宮島水質管理センター前では、シキミの実について北野会員の詳しい説明があった。中華食材の「八角」と間違わぬように気を付けよう。ウリハダカエデやヤマハゼなどの紅葉が鮮やかである。



タマミズキの枝先の赤い実、ジン酒の材料として利用されているネズの実。小さいながらも実りの秋である。野鳥たちは木の実の味をどのように識別しているのだろうか。

この観察路では土砂崩れ跡の復旧工事を期に、路肩に金網を設置して鹿の食害を受けない状態での植生を観察している。タラノキも見られる場所である。

近くの入江の浪打際にマガモやヒドリガモが群れていると穂井田会員の報告もあった。

幹にスミレモが見られるクロバイの樹間の岩陰に育つアリドオシ。宮島ではここでしか見られないと思われる。

道路傍の三画の船舶用の標識。対岸の大野町側との間の海底ケーブルの敷設経路の標識であると末原会長の説明があった。

このあたりからウバメガシが多くなる。多々良瀨の見える下り道の路傍にオオバウマノスズクサの蔓が金網で保護されている。是非とも花が咲く時期に訪れたいものだ。多々良川の橋で休憩する。橋の側のトサムラサキが紫の美しい実をたわわに付けている。

珍しい名前のシャシャンボでは黒紫色の実を、ちょっと失敬して味見。「ブルーベリーの味がする」との感想が出る。



(シャシャンボの実)

大木のカンザブロウノキに付着しているスミレモ。「藻類」に属し、海藻の仲間であるとのこと。植物の植生の不思議を感じる。やや急ぎ足で広島大学自然植物実験所に向かい、11時45分に到着。

下室浜の海岸で昼食をとる。

12時20分に出発、近くの準絶滅危惧種のイワタイゲキの群生地を観察した後、室浜砲台跡を訪れる。中道会員の軽快な解説。明治31年(1898年)に設置された砲台。石垣やレンガ積みなどに当時の技術レベルの高さが伺われる。一度も使われることなく、1926年に廃止されたとのこと。



この付近は、広島大学宮島植物実験所の管理で宮島の植物の保護や植生観察が行われており、砲台跡広場にもヤマモガシの成木がある。会員が、その木の葉っぱを食性としている蛾の一種のサツマニシキの幼虫を発見。冬を迎えるこの時期の幼虫は極く小さいが多数の幼虫を見ることが出来た。

植物と昆虫の食性を通じた共生。今回の観察路でもリーダーから解説があった。

クマノミズキとキアシドクガ、オオバウマノズクサとジャコウアゲハの関係。

昆虫に受粉を託す樹木、葉を食して育つ幼虫、互いに身を護る成分の取得も考えられるとも言われている。宮島の自然の多彩さを感じる一日となった。

帰路、参加者とパークボランティア会員が交流を深めながらウォーキングを楽しんだ。

14時50分に無事に大元公園無料休憩所で解散となった。



(文:横路 、写真:河野)

◇アンケート

- ・宮島の自然、歴史に興味がある
- ・講師の方々には大変お世話になりありがとうございました(80代男性)

- ・自然(植物など) 体を動かしたい
- ・観察内容、講師テキストは良かった。(80代女性)

- ・植物に興味がある
- ・丁寧な説明で良かったです。工夫して下さいありがとうございます(70代女性)

- ・自然や歴史に興味がある
- ・いろいろ教えていただき興味深かったです(70代女性)

- ・宮島特有の植物が見られるから
- ・普段行くことのない場所の観察会で面白かったです。丁寧に説明いただき良かったです(70代女性)

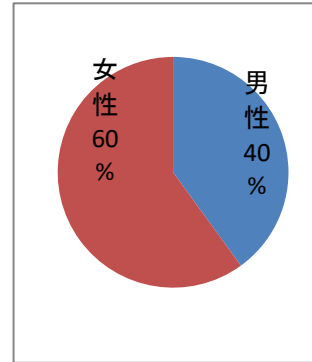
- ・植物に興味がある
- ・ヤマモガシとサツマニシキが見られた(60代男性)

- ・歴史に興味
- ・良かった(60代男性)

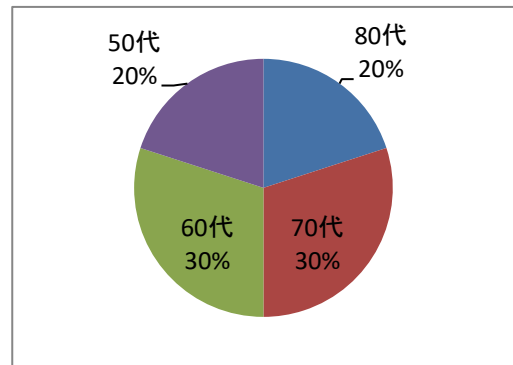
- ・植物に興味があり参加
- ・自由に質問できる雰囲気楽しかったです。講師、テキスト良いと思います。(60代女性)

- ・宮島の自然に興味があるため
- ・毎回コースを変えて頂き、幅広く自然を観察できる。講師の方が良く勉強されていて話が興味深く聞くことができる(50代男性)

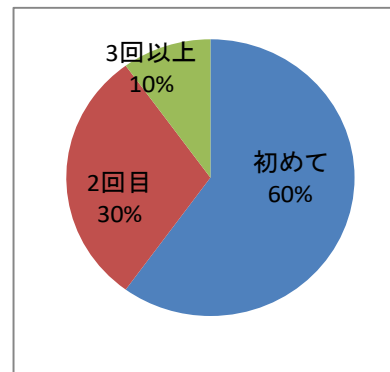
- ・植物に興味あり、大好きです
- ・距離は初めて聞いたときは驚きましたが歩きました。初めての植物が沢山見れました。写真を用意され、花も分かり良かったです
- ・準備、下見等大変だったと思います。楽しかったです、ありがとうございました。(50代女性)



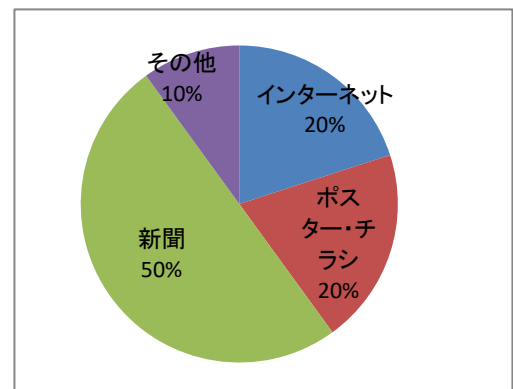
参加者の性別



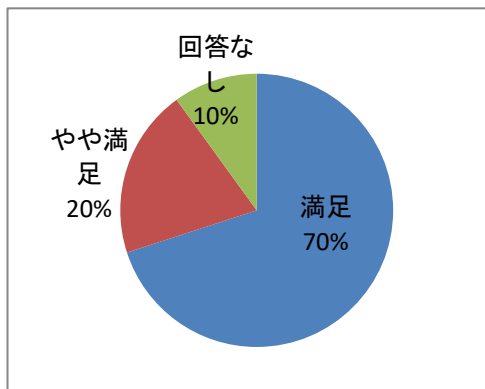
参加者の年代



観察会参加回数



行事を知ったのは



行事の感想

(まとめ 舛田)

全体進行、総会の司会 (岩崎副会長)
1.全体打合せ：9時15分～

(1)あいさつ (藤重自然保護官)
皆さんの活動に感謝している。観光客も増えてきた。引き続き皆さんと一緒に取り組んで行きたい。



臨時総会・部会打合わせ

令和4年度「宮島地区パークボランティアの会」臨時総会

日時：令和4年12月10日(土)
9:15～15:00

場所：etto 宮島交流館 2階ホール (宮島まちづくり交流センター)

参加者：麻生 猪谷 岩崎 大西 金山 北野 河野 小林(颯) 小林(み) 佐渡 佐藤 末原 中道 穂井田 増田 舛田 松田 村上(慎) 村上(光) 元広 森 森脇 山本(加) 山本(昌) 横路 呼坂

以上26名 (委任状提出者11名を除く)
環境省：藤重自然保護官、大高下 AR

(2)事務連絡 (環境省大高下 AR)

環境省主催「歴史・厳島神社」の講習会を開催し、多くの会員の方にご参加いただいた。来年度以降もテーマを変えて実施したい。

(3)あいさつ (末原会長)

皆さんの協力もありコロナ禍の中、ほぼ事業実施できた。和木町の教育委員会から当会へ出前授業の依頼があった。依頼を受けるかどうかについては、観察会で協議、検討していただきたい。会の発足から21年間無事故・無違反で活動できている。今後も継続していきたい。



観察部会

(4)入会活動 15 年感謝状伝達式

北野会員、五石会員、小林(勗)会員
小林(み)会員、松田会員の 5 名に藤重保護
官より感謝状の贈呈を行いました。



環境整備部会

(5)臨時総会の趣旨説明、活動状況報告

総会の趣旨説明後、末原会長、小林観
察部会長、河野環境整備部会長、岩崎広
報部会長よりコロナ禍の中であつたが、
大きな行動制限等なく、それぞれ予定し
ていた活動を進めることができたとの報
告がありました。



広報部会

2.部会打合せ：9 時 45 分～11 時 15 分

各部会に分かれて、任期満了に伴う新幹
事の選出。来年度活動についての打合せや
意見交換会を実施

各部会での幹事選出(敬称略)

- ・観察部会：北野 小林(勗) 中道 穂井田
舂田 村上(光) 山本(昌)
- ・環境整備部会：河野 末原 森
- ・広報部会：麻生 岩崎

3.臨時幹事会、臨時総会：

11 時 15 分～12 時 15 分

各部会から選出された臨時幹事会にて、
任期満了に伴う新役員、監査員の選出を行
いました。臨時総会の出席者は 37 名(出席
者 26 名、委任状 11 名)で、全会員数 40
名の半数以上で本会会則第 5 条第 1 項の
規程により総会は成立し、新役員が承認さ
れました。

各部会からの報告は、来年度の活動計画
について部会で打合せした内容を発表

・新役員（敬称略）

会 長：末原

副会長：岩崎、小林(勗)

会 計：舛田

監査員：森

顧 問：村上(光)

年末懇親会(自由参加 20 名)

会議終了後、恒例の年末懇親会を紅葉谷公園の山村茶屋で行い、おいしい焼牡蠣、おでん等の食事とお話で、和気藹々と楽しく過ごしました。

4.集合写真撮影と昼食：12時15分～13時
修復が完成した大鳥居前（御笠の浜）をバックにみんなで記念撮影（表紙写真）をしました。



幹事会集合写真



会員研修会

13時～15時

中道会員による「宮島と私」をテーマに開催。貴重な写真やスライドとともに、軽快でユニークな語り口で、貴重な体験談を聞かせていただき、とても楽しい研修会となりました。来年度以降も宮島に関する古い映画の鑑賞会や寺子屋を公募で開催するなどの研修会を実施したいとの要望もいただきました。



(文：森脇 写真：河野、麻生)

自主観察会(6) 新春弥山登山

日 時：1月9日(月・祝) 9時～14時
 ルート：宮島棧橋—紅葉谷コース—弥山本堂・霊火堂前—頂上—大日堂—大聖院コース—大聖院前解散

天 候：晴れ

行事推進委員：元広

参加者：岩崎 北野 河野 小林(勗) 佐渡
 佐藤 末原 二神 穂井田 増田
 村上(慎) 森 山本(昌) 横路
 以上 14 名

去年、一昨年とコロナ禍で中止だったため3年ぶりの新春登山。晴天で暖かい登山日となりました。

トピックは、今回のミミズバイの生育調査で、これまでの生育地点の最高標高を約3m更新するミミズバイ(樹齢3年くらい、樹高25cm)を発見したことです。温暖化の影響もあるかと推察します。



新発見のミミズバイ観察木

○ 登り

スタートは棧橋前の新春飾りの前。



集合写真(宮島棧橋前)

宮島にも観光客が戻り、家族連れなどの人出で活気づいている海岸沿いを歩き、3年間の補修工事を終えて美しい朱色となった「厳島神社大鳥居」を見ながら、紅葉谷から登山を始めました。



美しい朱色の厳島神社大鳥居

登りながら、いつものように、会員の皆さんから宮島についてさまざまな知識を教えてくださいました。

末原会長からは防災工事について。紅葉谷川には昭和20年の台風後、順に設置された15の堰堤があり、それぞれ竣工時期や形態が異なりますが、長年しっかりと土砂から守ってくれています。

この道は大岩など見どころも多いですが、やはり急傾斜。また2か所、道が大きく崩れていました。

岩崎副会長からは町石について。一丁(109m)毎に設置されたという町石ですが、時代

によって3種類あること、土砂崩れ等で別の場所に移動していたものを、皆が協力して元の場所に戻したことなど教えていただきました。

北野会員、山本会員からは植物について。何を見てもすぐ種類と特徴を教えていただけて辞書とご一緒しているようでした。毎回ちゃんと覚えようと思うのですが、、、今回もシキミ、サカキ、アカガシ、トサムラサキなど多数。



シキミの花

またミミズバイはハイノキ科で、他にクロバイ、シロバイ、カンザブノウキなどがあることも。

他の方からも歴史や文化など様々なことを教えていただきました。

○ミミズバイ調査

標高 300m を過ぎた辺りから、ミミズバイ調査に入りました。毎年生息状況を調べている 5 本を順に確認。いずれも元気に生育しており、樹高、幹周りなど測り、テープを巻き直しました。

これまで標高最高だった、ロープウェー道峠下の観察木①を調べている時、北野会員が少し上にもう一本発見！樹高 25.2 cm、幹周り 1.6 cm。これが標高最高となり、観察木②と位置付けました。

温暖化が進んだということでしょうか、喜べないかもしれません。

○頂上付近

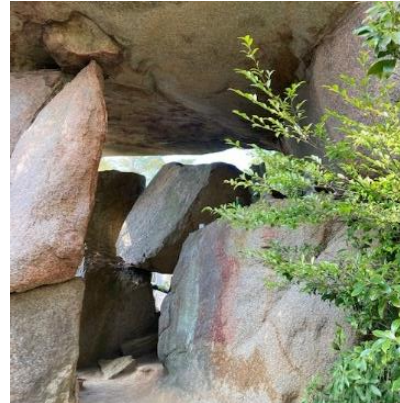
峠では「天然記念物弥山原生林」の石碑、マツブサも見た後、旧道も調査。本堂・霊火堂周辺では、「錫杖の梅」の木、晴れた日で

もこの木の下だけは露が落ちていたと言われる「時雨桜」の若木などを確認。



植栽された「時雨桜」(三鬼堂前)

頂上へ向かう途中では、大岩をくぐった先の「八臂(はっぴ)弁財天」や、「皇太子殿下大正十五年」(昭和天皇)の記念碑も確認。



大岩



八臂弁財天

頂上で昼食。展望台売店では増田会員がボランティアでコーヒー粉や記念品の販売しておられ、お話しを伺ったりした後記念撮影。



集合写真（弥山頂上）

○ 下り

下りは大日堂側へ。「天狗の足跡」、「干満岩」なども確認。大日堂の仏像は今、大聖院にあるそう。平成17年の大雨で崩れる前の旧道跡や、「遊女の石畳道」の跡、石畳の石は工事後の新道に使われたが昔の面影は残ってないこと、最後に、大聖院登山口の祠の積石に町石の案内「登十八丁」の彫文字があることなども。

いつもながら、植物、自然、歴史、文化など、あふれるばかりの情報をいただきながら、ゆっくり歩いた登山となりました。上着を脱ぐほどの暖かな日となり、楽しい登山でした。

（ 文：二神 、写真：河野 ）

◇ミミズバイ調査結果

新発見!! ミミズバイ幼木-----生育標高の最高記録更新

かねてよりの生育調査の目的-----生育地点の最高標高となるミミズバイを見つけることが出来ました。

幼木（樹齢3年くらい、樹高25cm）が順調に生育してくれることを願います。

名称	番号	樹高 (cm)	幹周り (cm)	場所	標高 (m)	前年 樹高	前年 幹周
新発見	①	25	1.6	尾根下右側	388		
大黒天	①	121	5	大黒天上 左側	385	123	5.4
15号	②	53	6	15号堰堤 上 右側	370	43	4.6
大岩下	③	188	10.3	14号堰堤上 右側	350	189	8.9
13号上	④	317	11.5	13号堰堤上 右側	330	280	11
13号	⑤	260	7.2	13号堰堤上 右側	320	247	6.4
天然橋	番外	380	17.5				

（ まとめ：岩崎 ）

自主観察会(7)

野鳥観察 宮島

日 時：2月4日（土）

場 所：大元公園、アセビ歩道、もみじ歩道

天 候：晴れ

行事推進委員：大西 穂井田 福岡

参加者：大西 大林 北野 河野 小林(勗)

小林(み) 佐藤 末原 二神 穂井田

舛田 三戸 元広 森 横路

以上 15 名

※野鳥の会の方 2名（観察のサポート）

よく晴れて、少し春を感じさせる日でした。大西会員、穂井田会員、吉岡夫妻（日本野鳥の会）を講師とし、会員 15 名が参加しました。

本日の調査のハイライトは、以下の 3 点です。大変実りの多い観察会となりました。

大元公園から大聖院までを観察しながらゆっくり歩きました。大元公園では、松の木に、シジュウカラ、エナガ、ヤマガラの混群が見られました。大元公園前の海上では、冬鳥のヒドリガモを観察することができました。空を横切るマガモの群れ、羽繕いするアオサギが見られたほか、遠くの海上にはカムムリカイツブリを確認することができました。

歓声があがったのは、キクイタダキとの出会いです。広葉樹の木の枝から枝へと移動を繰り返していました。日本で一番小さな鳥の一つです。また、冬鳥のアトリの群れも見ることができました。アトリのオレンジ色は、とても鮮やかで美しいです。

もうひとつ、歓声があがったのは、ミソサザイとの出会いです。枯れて横たわっている大木上を盛んに移動していました。ミソサザイも、キクイタダキと同じように、とても小さくてかわいい野鳥です。夏は山間部にいますが、冬になると平地におりてきます。

さらに歓声があがったのは、ルリビタキとの出会いです。山道上で静かにしている姿を確認することができました。

冬鳥たちを中心に、大変実りの多い観察会となりました。全体としては、下表のとおり 30 種の野鳥たちに出会うことができました。

種名	数	種名	数
ヒドリガモ	30	ヒヨドリ	5
マガモ	10	ウグイス	1
カルガモ	8	エナガ	5
カムムリカイツブリ	3	メジロ	10
キジバト	4	ミソサザイ	1
カワウ	1	シロハラ	1
アオサギ	1	ルリビタキ	3
ミサゴ	1	ジョウビタキ	4
トビ	1	イノヒヨドリ	1
コゲラ	2	ハクセキレイ	2
ハシボソガラス	2	セグロセキレイ	1
ハシブトガラス	2	アトリ	30
キクイタダキ	3	カワラヒワ	2
ヤマガラ	5	アオジ	2
シジュウカラ	6	ウミアイサ	1
		計30種	

季節区分	冬鳥	夏鳥	留鳥
------	----	----	----

季節区分は、『ひろしま野鳥図鑑』（2002年 日本野鳥の会広島県支部（編）中国新聞社刊）による。



観察風景



ヒドリガモ (撮影：河野)



アトリ (撮影：北野)



アオサギ (撮影：北野)



ルリビタキ (撮影：北野)



集合写真

(文：元広 写真：河野、北野)

追加原稿の記載

2022.9.11 (土) 入浜池定点観察②

【昆虫ほか】 (文・写真 小川)

ヒトモトススキの調査を手伝いながら、目に止まったものを記録し、次表にまとめました。私の力不足で同定できなかったものも表に挙げています。表にないメダカ、アメンボの姿もいつものようがありました。

種名 (※は写真の番号)	特記事項
アオモンイトトンボ	ヒトモトススキの葉で静止
オニヤンマ	飛翔
ギンヤンマ(※1)	中央の谷内坊主で産卵
シオカラトンボ(※2)	多、飛翔、打水産卵
オオシオカラトンボ(※3)	多、飛翔、打水産卵
オレンジのトンボ	多、飛翔、ウスバキトンボ?
全身真っ赤のトンボ	ショウジョウトンボ?
アカネ属のトンボ	北側フェンス付近、リスアカネ?
クロアゲハ(※4)	砂地で吸水
アゲハ(※5)	ハマゴウの花で吸蜜
カラスアゲハ	飛翔
ヤマトシジミ	池周辺の草地
ヤマトマダラバッタ	砂地
ルイスハンミョウ(※6)	砂浜(波打ち際の近く)
カニの脱皮殻(アカテガニ科)、甲幅3cm前後	A地点北側のぬかるんだ砂地で3個確認。軟らかく新鮮。
イノシシの糞(※7)	D地点付近
ニホンジカ	7頭以上

注:「多」とあっても何十という数はいませんでした。



1. ギンヤンマ(連結産卵)



2. シオカラトンボ(メス)



3. オオシオカラトンボ(オス)



4. クロアゲハ(吸水)

*****投稿*****

宮島エコツーリズム協議会視察



5. アゲハ(吸蜜)



6. ルイスハンミョウ



7. イノシシの糞

2月6日～8日に宮島エコツーリズム推進協議会の上嶋会長、宮島観光協会、宮島町商工会、宮島登録ガイド連絡会、廿日市市観光課職員と共に、岩手県釜石市の観光地域づくり法人「株式会社かまいしDMC」への視察に同行した。

釜石市は岩手県南東部、三陸復興国立公園の中心に位置し、面積約440K㎡、世帯数約15千、人口は約3万人です。2011年の「東北地方太平洋沖地震」では、死者・行方不明者が1,121人、全壊住宅が2,957戸という大きな被害を受けました。被災地も12年経ち被災の跡形もなく、高台に移転した住宅や商店、嵩上げされた海岸護岸が見受けられました。

釜石市は、震災復興の柱として観光振興ビジョン「オープン・フィールド・ミュージアム釜石」の構想を掲げました。その構想を目指す「株式会社かまいしDMC」は、地域の持つ観光資源及び地域産品の魅力を最大限引き出し、地域経済活性化策として、漁業体験、林業体験、漁船クルーズ、釜石ジオ弁当やジェラート販売、キャンプ場や津波伝承館施設の管理など行っています。

視察は、被災復興施設の鶴住居復興スタジオ他4施設の見学、河東社長の講演会と意見交換会、漁業及び林業事業者との交換会、漁船クルーズでは船上で海水を採集し、岩手大学釜石キャンパスに行き顕微鏡でマイクロプラスチックの確認作業と講座を受けました。

宮島エコツーリズム協議会も組織の体制、資源の確保と活用が急務であると思われました。私達の会は組織に協力し、連携を保って行きたいと思えます。



マイクロプラスチック確認作業



釜石鵜住居復興スタジアム



漁船クルーズ体験

(文・写真 末原)

◇ 編集後記 ◇

1月の幹事会に参加したときに広場から棧橋に着いたフェリーを眺めると屋上デッキまで観光客でいっぱいでした。

G7サミットで宮島も舞台になるとのことなので、世界の注目度がさらに高まり海外からの観光客がどっと増えそうです。

みせん 92号に関連の記事が記載できるとよいと思っています。(麻生)



瀬戸内海国立公園
宮島地区パークボランティアの会

事務局：環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所
(〒730-0012)
広島市中区上八丁堀6番30号
広島合同庁舎3号館1階
TEL082-223-7450、FAX082-211-0455